



広げよう コミュニティの輪

彩の国コミュニティ協議会



主な内容

P2 彩の国コミュニティ協議会平成17年度定期総会開催

- ・会長あいさつ
- ・記念講演

P3 彩の国コミュニティ協議会会員紹介

- ・企業会員 i-Sayama (アイ・サヤマ)
- ・団体会員 (県域団体) 財団法人いきいき埼玉

P4 先進的地域活動

- ・地縁法人太田窪新田自治会
- 特集** ・防犯のまちづくり(1)

編集・発行

彩の国コミュニティ協議会 (埼玉県総務部県民・消費生活課内)
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-2819 FAX 048-830-4750
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/BQ00/community/com.htm>

会員募集 当協議会では、コミュニティ活動をさらに活発にするために、協力していただける新規会員を募集しています。

彩の国コミュニティ協議会 平成17年度 定期総会開催

彩の国コミュニティ協議会の平成17年度総会を平成17年6月10日に開催しました。当日は、平成16年度事業報告・収支決算、平成17年度事業計画（案）・収支予算（案）などについて審議が行われ、いずれも原案のとおり承認されました。

また、第2部では「コミュニティ活動で防犯のまちづくり」の記念講演が行われました。

会長あいさつ

当協議会は、昭和54年に設立されて以来、関係の皆様のご御尽力により、まちづくりの拠点として大いなる効果上げてきています。

県政世論調査では、今まで教育や福祉への要望が一番多かったのですが、昨年初めて、治安、防犯の分野が一番になりました。地域でかかえる課題が変化してきているのだと認識しております。



治安、防犯を基本的に担うのは警察です。本県の検挙率は2年連続47位、最下位でしたが、昨年は、3年ぶりに46位になりました。すべての都道府県が努力している中、1位上げることはとても大変なことではありますが、毎年1位ずつ上げていこうと警察本部長にお願いしております。

しかし、警察の力にも限界があります。そこで、昨年度は、民間のパトロールに県が助成金を出すことで一気に民間パトロールを育てようと考え、いろいろとお願いをしましたところ、昨年4月には、500ぐらいだった民間パトロールの数が、今では1,100ほどになっております。私はさらに10,000にしたいと思っておりますが、そのためには、相当な知恵の結集が必要です。今後は、いろいろな民間パトロールが増えることを期待しております。警察だけでなくこうした民間のソフトな部分が活躍し、地域社会の連帯を作っていければと思っております。

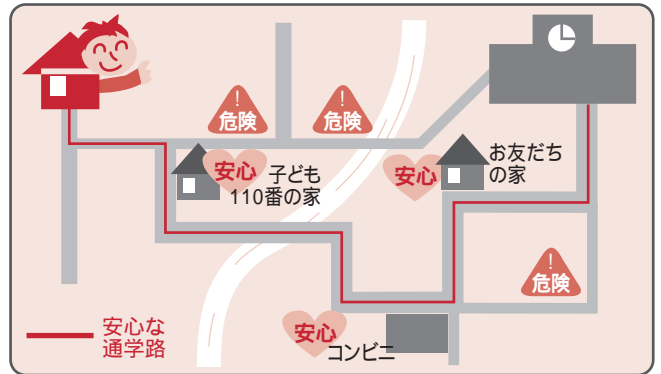
コミュニティ協議会の会員の皆様には、地域社会の連帯を高めるための、様々な活動分野において、御支援をいただき、埼玉県の地域社会の健全な発展のために、御尽力いただいておりますことにお礼を申し上げます。県も一生懸命頑張っておりますので、引き続き御支援を賜りますことを、心からお願い申し上げます。

平成17年度記念講演

テーマ「コミュニティ活動で防犯のまちづくり」

子どもの危険回避研究所所長の横矢真理講師には、様々な危険回避についてお話いただきました。

1 地域安全マップの作成



地域安全マップの作成は、子ども自身で危険な場所を見つける目を養っておくことで、ほかの場所に行っても危機管理のできる「応用力」を持ち、危機回避能力を自然と身につけることができます。

よく通る道、通学路などを対象に、手書きの地図を作り、事件や事故が起きそうな所、起きた所をチェックして歩き、子どもが中心となって作成していくものです。

2 『いかのおすし』

『いかのおすし』みなさんはこれを聞いて何を連想しますか？

イカ = 知らない人にはついて行かない。

の = 車に乗らない、誘いにのらない。

お = 「助けて！」と大声をあげる。

す = すぐに逃げる。

し = 被害や犯人の特徴などを知らせる。



これは、連れ去りや誘拐事件を未然に防ぐためのノウハウをまとめたものです。

「いかのおすしってなんだと思う？」など、クイズにして、防犯について家族で話あうきっかけにしてみたいはいかがでしょうか。

講師プロフィール

横矢 真理 (よこや まり)

NPO法人 子どもの危険回避研究所所長。

「親子で生きる力を養う」ためのサイト「子どもの危険回避研究所」を開催・運営し、子どもに関わる事故・犯罪・暴力・健康・環境などの情報を提供。

(<http://www.kiken-kaihi.org/>)

会 員 紹 介

今号より、彩の国コミュニティ協議会の皆様の活動を紹介します。

企業会員

インターネット上には現在たくさんのコミュニティサイトがあります。i-Sayama (アイ・サヤマ) は、そのようなコミュニティサイトの1つで、特に「狭山市」という地域の情報に絞ったコミュニティサイトです。

アイ・サヤマでは、狭山市を中心にその近隣の市町村に住む人々の暮らしや生活、地域活動に役立つための情報を提供

しています。たとえば、ごみの収集日や電車の時刻表、市内の全バス停の時刻表、イベント情報などを提供しています。また、情報の提供だけでなく、サイト訪問者同士がネット上で地域の情報交換をするための会議室や、地域の人達が特派員となってネット上にニュース



を掲載する「バルクニュース」、狭山に住む人が書く「ブログ」などの場を提供し、訪問者参加型のコンテンツをたくさん用意しています。

i-Sayama (アイ・サヤマ)

また、地域で活躍する各種団体やサークルの方たちのPRの場としても利用して頂いています。

アイ・サヤマはもともと狭山市の中のさらに小さい一部の地域の情報を提供するサイトでしたが、2000年4月から狭山市全域の情報サイトとしてより多くの市民同士のコミュニティの場として再スタートしました。以来、数回のリニューアルを重ねてコンテンツを充実させ、2005年7月からは一部会員制(登録は無料)のコンテンツなどを用意しさらに役立つサイトを目指しています。

今後は、地域の商店・企業情報として市内外の商店のPRや求人募集、サービスクーポンの発行などをしていきたいと思っています。また、会員向けのコンテンツとして、生活情報の充実、狭山での生活Q&Aのコーナー、地域活動サークルPR用ブログなどコンテンツの充実をはかり、より多くの市民の人達の情報交換の場として利用していただけるようにウェブサイトの運営を進めていく予定です。

i-Sayamaホームページ

<http://www.sayama.org/>

団体会員(県域団体)

埼玉県県民活動総合センターは、平成2年にオープンした県立施設で財団法人いきいき埼玉が管理・運営しています。このセンターでは世代間交流やボランティア・市民活動の推進、生涯学習事業や相談業務を行うほか、研修会場などとして、年間50万人以上の方に「けんかつ」の愛称でご利用いただいています。

けんかつでの最大のイベントが、11月に行う「彩の国いきいきフェスティバル」で、名称、開催時期に変遷はあるものの、センターオープン以来毎年実施してきました。

平成16年も太極拳やストリートダンスなどの活動団体・サークルの発表、竹馬・ベゴマなど昔遊びのコーナーでの世代間交流など、参加団体数約60、来場者数1万人以上と、たいへん賑わいました。他にも聴導犬の実演や、高齢者擬似体験など体験型の催しも多く、楽しいお祭りにプラスアルファがある、そんなフェスティバルなのです。

また、昨年は、新潟県中越地震の災害義援金を募る団体の参加や、防災ボランティアのブースが大盛況だったりと、ボランティア活動に特に関心が集まりましたが、実は、このフェスティバルもたくさんのボランティアに支えられています。

準備から、催しの進行、整理まで、毎年参加して下さる方もいらして、皆さんの熱意に職員も圧倒されるほどです。

地元の皆さんからも毎年フェスティバルを楽しみにしてい

財団法人いきいき埼玉

るとの声をいただいております。周辺自治体、関係機関、企業など計20以上の団体からの後援・協賛をいただくなど、参加する人、支える人の手作りのイベントとして定着してきました。今年のフェスティバルは11月6日(日)に開催いたします。ここまでご紹介した催しに加え、「いきいき寄席」や「folklore・ライフ」、フリーマーケットや模擬店など様々な企画があります。けんかつの「彩の国いきいきフェスティバル」で秋の一日を過ごしてみませんか。皆さんのお越しをお待ちしております。

財団法人いきいき埼玉ホームページ

<http://www.iki-iki-saitama.jp/>



今回紹介する『地緑法人太田窪新田自治会』は、平成16年度住民自治組織活動功労賞で最優秀賞を受賞した団体です。ごみ収集所の美化活動など積極的な地域の環境改善活動や、防犯交通パトロール隊を結成し、チーム制を取り入れた独自のパトロール・システムによる活動を展開しています。

取り組みの中でも、環境美化活動についてご紹介します。

カラス対策、激辛ごみ袋！

この地域では、長い間ゴミを荒らすカラスに困っていました。

「激辛おにぎり」を使ってカラスを撃退したという新聞記事を参考に試行錯誤していたところ、埼玉県激辛ごみ袋使用のモニターと認定され、県内最大規模でカラス対策を実施しました。実際に行ってみるとごみ袋の効果は絶大で、袋をつつかれることはあってもゴミが散乱することはありませんでした。

さらに、取組をきっかけに、生ゴミを新聞で覆うなど、地域の人々が注意をするようになったことも成果の一つです。

ゴミ収集所の分散化と環境パトロール隊

当地域は、戦後住宅戸数が増加し続けてきたので、1箇所利用戸数10戸前後を基準に、ゴミ収集所を適正配置（新設は21箇所！）し、利用者の顔が見えるようにしました。

また、環境パトロール隊を結成し、ルール違反のごみ袋には注意書を貼るなど、積極的に地域の環境改善を図っています。

このような結果、ゴミ収集所は見違えるほどきれいになり、さらに新旧住民の融和や近隣関係の構築等、地域コミュニティの活性化にも役立っています。



特集 防犯のまちづくり(1)

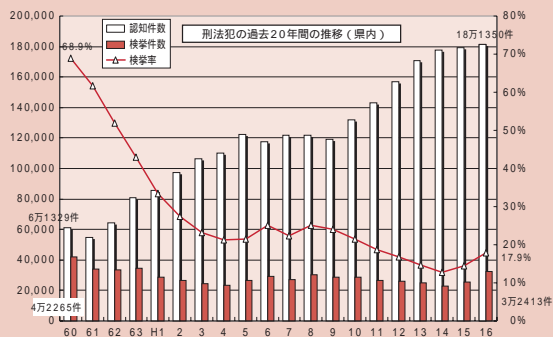
近年、取り上げられることの多い防犯について、特集を組み連載していきます。

1 埼玉県の犯罪を取り巻く状況

日本の犯罪発生率は、戦後、長い間横ばいでしたが、平成9年ごろから急激に上昇し始め、平成14年には過去最高を記録しました。

一方、埼玉県内では、都市化の影響も受けて、昭和62年ごろからほぼ一貫して増加傾向を示し、ここ数年の間では、過去最高を更新し続けています。20年前と比較すると、全国的には約1.6倍に増加したのに対し、県内では約3倍の増加となっています。

これに対し、検挙率は犯罪の増加に反比例して下降の一端を辿り、平成14年の県内の刑法犯検挙率は過去最低、全国最低の12.8%まで落ち込みました。



2 「割れ窓理論」について

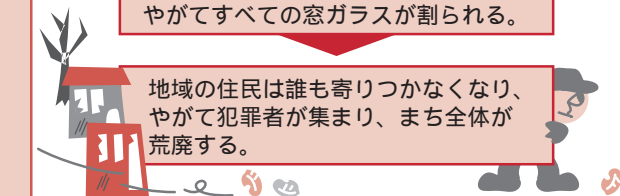
アメリカのジョージ・ケリング博士は、「一枚の割れた窓を放置しておく、そこから無秩序状態が生まれ、やがてまち全体の荒廃につながっていく」という「割れ窓理論（ブローケン・ウィンドウズ理論）」を提唱しました。小さな犯罪の放置が大きな犯罪の温床になるということです。

割れ窓理論のイメージ

割れた一枚のガラスを放置する。

やがてすべての窓ガラスが割られる。

地域の住民は誰も寄りつかなくなり、やがて犯罪者が集まり、まち全体が荒廃する。



「割れ窓」とはごみ出しが守られていないこと、落書きが多いこと、放置自転車が多いことなど生活上のルールが守られていない状態が当てはまります。このような地域は住民の連携が弱く、犯罪に対して抵抗力のない地域と見られます。

3 機会なければ犯罪なし

犯罪の多くは、犯罪を行う「機会」に乗じて敢行されることから、その機会を取り除くことにより、ある程度は防ぐことができると言われています。

「機会無ければ犯罪なし」という発想です。

「防犯のまちづくり」は、犯罪に遭いにくい構造の施設や市街地をつくるハード面の対策と、市民参加の「割れ窓を放置しない」コミュニティづくりのソフト面の対策が、車の両輪のように連携し、犯罪を起こさせにくい地域環境をつくることなのです。

防犯のまちづくりホームページ

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/B700/bouhan/bouhantop.html>